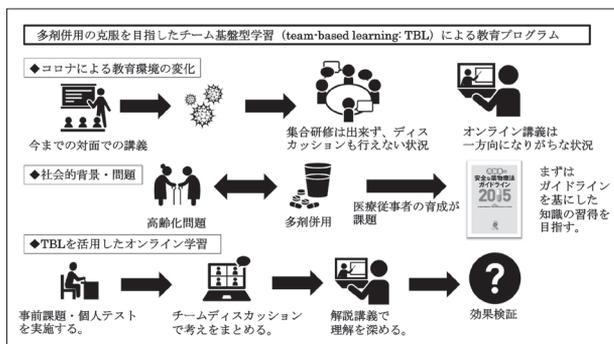


# 多剤併用の克服を目指した チーム基盤型学習 (team-based learning:TBL) による 教育プログラムの開発と評価

相宮 幸典 ● 藤田医科大学 大学院看護学研究科 研究員



チーム基盤型学習による教育プログラムの概略図

## 1. 背景と目的

コロナ禍で集合型の研修の実施が困難となり、オンラインを活用した研修が多く行われている。オンラインでの研修会の多くは一方的な知識の伝授となってしまっている。チーム基盤型学習 (team-based learning:TBL) は一人の講師が多くの受講生に対し、効果的にグループ学習を導入できる手法であり、その有用性が数多く報告されている。これをオンライン研修に組み込み、同じ教室にいらなくても能動的な学習ができるプログラムを検証を行う。

2022年4月の診療報酬の改定において、「服用薬剤調整支援料2」について、減薬等の提案により、処方された内服薬が減少した実績に応じた評価に変更するとして、100点から110点へと引き上げられた。多剤併用の是正に対する期待が大きいことがうかがえる。

本研究では、ポリファーマシーをはじめ老年薬学に対し、正しい知識・技能を学び、薬剤適正化に寄与できる地域医療従事者育成のための教育としてTBLを用い、『高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015』を基にした知識と症例に介入できる技能の習得が可能かどうか、TBL群と非TBL群の2群間ランダム

比較試験で調査研究を行うことを目的とする。

## 2. 取り組みの方法

ポリファーマシーをはじめ老年薬学に対し、正しい知識・技能を学び、薬剤適正化に寄与できる地域医療従事者育成にオンラインTBLを用いた教育プログラムの教育効果が有用性であることを示し、発展させていくことは重要であると考えます。

方法として研究参加の同意の取得後、事前学習の課題として『高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015』の内容の理解を求めます。受講当日、事前課題に基づく個人テスト (Google フォームを活用) を実施し、回答を収集する。被験者は、TBL群と非TBL群にランダムに分け、TBL群では30分間チームディスカッションを実施し、チームとして回答を提出させる。非TBL群は個人テストを実施後、30分間自己学習を実施するのみとする。

その後、両群に対して解説講義を実施する。解説講義終了後、TBL群に対してはピアレビューを行う。その後TBL群・非TBL群共に応用演習を行い、主要評価項目として演習の到達度を評価する。加えて学習方法に関するアンケート調査を行い、副次評価項目として検討する。

## 3. 期待される成果

コロナ収束後にも、標準化した教育プログラムとして実施。地域医療従事者の卒業後研修に取り入れ、幅広い分野に対し、採用できる。受講者にとって受講場所を選ばず、移動時間が削減できること、講師側も少人数で開催可能、実施会場確保の負担も軽減でき持続可能な教育プログラムとして展開する。